



# 「おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)」 腫れるだけじゃないんです

千葉県小児科医会 小林 一彦 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00～翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは  
☎043 (242) 9939

## Q1 おたふくかぜはどんな病気ですか？

おたふくかぜウイルス(ムンプスウイルス)に感染することにより耳の下(耳下腺)や顎あごの下(顎下腺)が腫れて痛くなります。腫れは片方だけのこともあり、3～7日続きます。発熱は2日程です。熱が出ないこともあります。咳・くしゃみによる飛沫または唾液の接触で感染します。おたふくかぜと診断されると腫れが出現してから5日過ぎて元気になるまで学校、保育園、幼稚園を休むことが学校保健安全法で定められています。軽症の場合が多いですが、おたふくかぜウイルスは全身の臓器に感染するため重い合併症をおこすことがあります。

## Q2 腫れるだけじゃないんですか？

今まで普通に音が聞こえていた人が急に耳が聞こえなくなってしまうことがあります。多くは片側ですが、治りにくい高度難聴になることがあります。日本耳鼻咽喉科学会の全国調査では2015～16年の2年間で少なくとも348人が難聴になり300人近くの方に後遺症(両側難聴は16例)が残っていることが明らかになりました。実際に難聴になる方はもっと多いと考えられています。

無菌性髄膜炎の合併は1～10%の方に認められます。発症すると激しい頭痛、嘔吐をきたします。脳炎も報告されています。

思春期以降では男性患者の20～40%に精巣炎、女性患者の5%に卵巣炎をおこすと言われています。

## Q3 おたふくかぜの治療法は？

おたふくかぜウイルスに対する特別な治療法はありません。そのためワクチンで予防することが大切です。世界の多くの国々では2回の予防接種が行われています。日本では任意予防接種ワクチンのため接種に自己負担が必要です。

## Q4 おたふくかぜワクチンとは？

おたふくかぜワクチンは生ワクチンです。日本小児科学会では1歳で1回目、5～6歳で2回目の予防接種を推奨しています。

副反応として接種して2～3週後に一過性の耳下腺の腫れ、発熱が2～3%のお子さんにみられますが自然になおります。ワクチン接種後の無菌性髄膜炎は数千人に一人で、接種しないでのおたふくかぜに自然にかかった場合(1～10%)よりずっとまれです。

日本耳鼻咽喉科学会は、おたふくかぜによる難聴の大規模全国調査の結果をうけて、ワクチンの重要性、任意接種から定期接種にすることを日本小児科学会とともに強く求めています。

